

## V. 特記事項

### 1. 本学独自の「スタンダード科目」を設置【教育の特色】

本学では、5 項目のディプロマ・ポリシーに基づき健康・医療・福祉分野で活躍する専門職業人従事者の養成を目指して、コミュニケーション能力や学生が自ら問題を発見し、協働して問題解決する能力を育む「スタンダード科目」を平成 28(2016)年度に導入した。この「スタンダード科目」の中で、最も特色あるものとして、学部・学科を超えたクラス編成で全学的に実施している「専門職連携教育 (IPE : InterProfessional Education、以下、「IPE」という)」が挙げられる。IPE については、学生全員が専門職連携(IPW : InterProfessional Work)に関する知識・技術を修得するため、平成 24(2012)年度から試行し、平成 25(2013)年度より全学で本格的に実施しているものであり、1 学年 1,000 人規模で行っている大学は日本では殆どない。IPE は初年次に行う基礎演習及び、2 年次以降に行う総合演習から成り、IPW の基礎となるコミュニケーション能力の修得とともに、学生自らがめざす職業の理解や他職種の理解を深める。また、各職種の専門性を前提としながら、お互いを尊重しつつ相互に連携し、利用者の立場に立って問題に対処する大切さを学ぶ。

また、「スタンダード科目」では「地域創生と危機管理」を全学必修科目としており、受講者全員が一次救命措置の資格を修得する。また、学んだ知識、技能・能力を元にして、地域社会において必要とされている課題の発見と、解決する力を育むとともに、災害発生のメカニズムの理解や、「マイタイムライン」作成など実践的な内容の授業を通し、防災・減災への備えについて理解を深め、地域貢献に役立てる内容となっている。

### 2. 地域の健康寿命の延伸に資する本学の取り組み【研究・地域貢献の特色】

本学では、健康・医療・福祉分野の総合大学として、本学に関係するあらゆる人の「well-being」のため、身体的・精神的・社会的な支援を通じて、地域の健康寿命の延伸に取り組んでいる。令和元(2019)年 1 月に地域住民の健康寿命を延伸するための組織「しあわせ健康センター」を東広島キャンパス 2 号館に設置した。本センターは、令和 2(2020)年度より「Active Wellness Center」内に移転し、より充実した施設において活動しているが、コロナ禍により、現状では電話相談を中心に業務を進めている。

さらに、令和 2(2020)年 6 月に、東広島市が設置した「東広島市健幸ステーション連絡協議会」では、本学を中心に地域の健康づくりや介護予防等を担う多様な団体と連携し、フレイル対策に向けた方針や企画立案の検討を行うほか、健康で幸せに暮らせるまちづくりに向けた情報交換を行っている。令和 3(2021)年度は、本学教員が講師を務め「フレイル予防講座」「フレイルアドバイザー・サポーター養成講座」を提供した。令和 3(2021)年 4 月には、呉キャンパス 3 号館 3 階スポーツラボ内に新たな活動場所を設けた。

これらの健康寿命延伸の研究及び地域貢献を果たすことにより、本学の健康・医療・福祉分野のブランド確立を目指す。